探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：竹原市立吉名学園校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
竹原市立吉名学園	13	132

（R4.11.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

主体的に学び，自分の言葉で語る児童生徒の育成
－郷土に学び，未来を拓くプロジェクト型学習を通して－

本校の学校教育目標は「『拓く力』の育成」である。「拓く力」とは，変化の激しい社会に立ち向かい，自分自身や社会の未来を切り拓いていく力である。この「拓く力」を育成するためには「主体的に学ぶこと」「自分の言葉で語ること」が重要であると考え，一昨年度より「主体的に学び，自分の言葉で語る児童生徒の育成」というテーマを掲げ，授業研究を進めてきた。

今年度は，これまでの成果を生かし発展させることを目指して，引き続き，同じ研究テーマを掲げ研究を進めることとした。

（２）資質・能力の設定について

本校では，「YOSHINA未来学」で育てたい資質・能力を整理し，「育成したい12の力」を設定している。

① 知識及び技能
　ア　知識
　イ　技能（主としてＩＣＴ活用技能）
② 思考力・判断力・表現力等
　ウ　課題を発見する力・企画する力
　エ　活動を計画・推進する力
　オ　情報を収集する力
　カ　整理・分析する力
　キ　表現する力
　ク　発想する力・工夫する力
　ケ　評価する力
③ 学びに向かう力・人間性等
　コ　挑戦する力・改善する力・やり遂げる力
　サ　協働する力
　シ　将来を設計する力

さらに，それぞれの資質・能力を，系統的に育成できるように，第Ⅰ期（第１学年及び第２学年），第Ⅱ期（第３学年及び第４学年），第Ⅲ期（第５学年から第７学年），第Ⅳ期（第８学年及び第９学年）の四つの段階を設定し，それぞれの段階での資質・能力を発揮した姿を具体化した。

また，本校では，第１学年及び第２学年においても，「育成したい12の力」に基づいて単元の目標及び評価規準を設定している。ただし，生活科で育成を目指す資質・能力と本校で設定した「育成したい12の力」で重ならないものについては，記録に残す評価は行わず，指導に生かす評価のみを行うこととしている。

（３）取組について

【共通の視点に基づいた単元開発及び実践】

これまでの授業研究を通して得た知見を，「YOSHINA未来学」の単元づくりにおける共通の視点とし，それに基づいて全学年で単元開発及び実践を行った。共通の視点とは次の二つである。

一つは，「単元の三つの型」（図１）である。ＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方を参考に，「夢実現型」「提言型」「貢献型」の三つの型を示し，それに基づいて各学年の発達段階や扱う学習材等を踏まえて，単元開発を行った。

図１　単元の三つの型

もう一つは「単元づくりの五つのポイント」（図２）である。これまでの授業研究で効果的であった学習を進めるポイントを五つに整理し，それに基づいて単元開発・実践を行った。今年度は特に，「本気になる課題設定」，「失敗・困難との出合い」，「再挑戦の場の設定」の三つに重点を置いた。

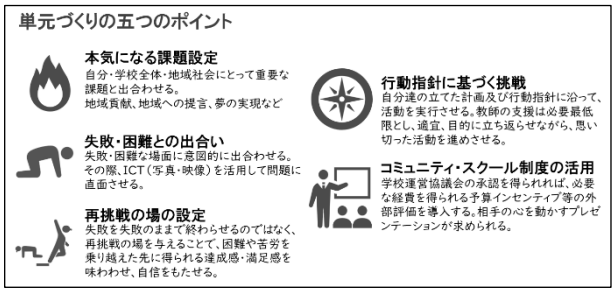


図２　単元づくり五つのポイント

【ルーブリック（評価基準表）を活用した見取り】

ルーブリックの活用については，研究通信や事後協議会を通して，教員がルーブリックを参考に児童生徒の資質・能力が発揮された姿を見取り，それを生かして形成的評価や指導助言を行うという共通認識をもつことができるようにした。

図３　ルーブリックの活用

そして，昨年度作成したルーブリックを活用して実際に児童生徒の見取りを行った。研究授業では，全教員がルーブリックを参考に児童生徒の資質・能力が発揮された姿を見取り，事後協議会で見取りを交流することで，見取りの精度を高めた。

見取りを交流する様子

２　実践事例

第７学年「吉名野菜生産販売プロジェクト」(実践型・貢献型)

前述した「単元の三つの型」「単元づくりの五つのポイント」に基づいて単元開発・実践を行った。本稿では，単元の流れとポイントについて示す。

本気になる課題設定

①過去の７年生の販売実績を基に，自分たちの目標額を設定し，自分たちが生産・販売したい野菜を決める。
②ゲストティーチャーから夏野菜の育て方を学んで夏野菜を生産したり，販売の工夫を考えたりする。

失敗・困難との出合い

③カラスに野菜を食べられたことを受け，対策を考え，実行する。

④夏野菜を収穫・選定し，自分たちが考えた販売の工夫を取り入れながら道の駅で販売する。

失敗・困難との出合い

⑤販売結果が赤字だった事実を知り，活動を振り返る。
⑥夏野菜生産・販売で振り返ったことを基にじゃがいもの生産・販売の目標を設定し，販売の工夫を考える。
⑦じゃがいもを育てたり，道の駅での販売に向けた準備をしたりする。

再挑戦の場①

⑧じゃがいもを収穫・選定し，自分たちが考えた販売の工夫を取り入れながら道の駅で販売する。
⑨道の駅での販売結果を知り，活動を振り返る。

再挑戦の場②

⑩振り返ったことを基に各自で課題を設定し，竹原駅前のイベントで販売を行う。

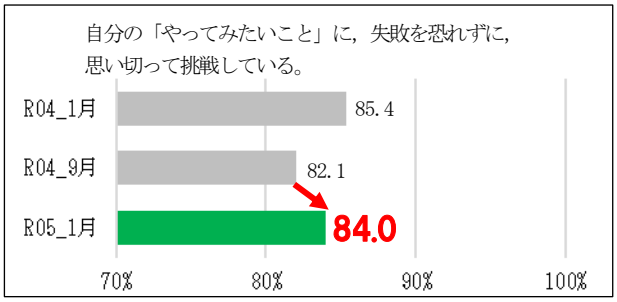
⑪単元の学習を振り返る。

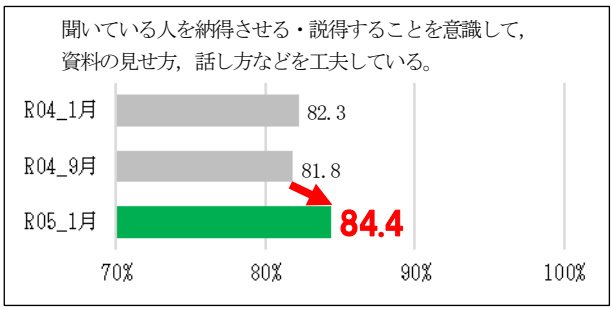
詳細は別紙資料（学習指導案）を参照。

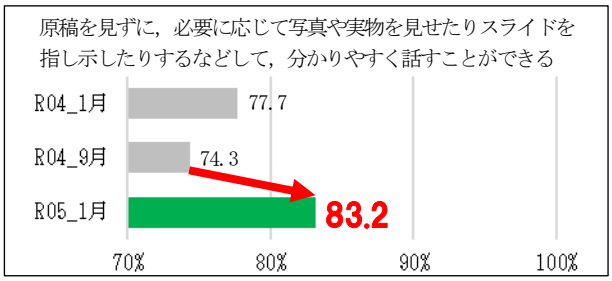
３　研究の成果と課題等

（１）成果

○本校独自の質問紙調査（全児童生徒対象）の肯定的回答の割合を比較したところ，「主体性」と「プレゼンテーション力」に関わる項目で上昇が見られた。特に「プレゼンテーション力」は顕著であった。







○「失敗・困難との出合い」「再挑戦の場」という理念を学校全体で共有することができた。

（２）課題

○児童生徒が自ら目標や計画を立て，実行し，改善を図るといった「自立した学び」ではなく，単元のゴールを教員が設定する学年もあった。
○自分たちが学んだことをまとめて発表することに留まったり，単元のゴールまでの道筋が立てられず行き詰まったりする等，実行段階まで辿り着かなかった学年もあった。
○ルーブリックを活用した評価については，評価の在り方も含め再検討の余地がある。

（３）今後の改善方策等

○児童生徒の「自立した学び」となるよう，児童生徒に学習を委ねる教師のファシリテートの理念と技術を共有する。
○実生活・実社会への還元に向けた実行段階や児童生徒の思考の流れに沿うことを意識した単元を構想する。
○ルーブリックを活用した評価及び改善を継続して行い，児童生徒の「よさ」を見付ける評価となるようにする。